

はいのうよう

肺膿瘍

肺膿瘍は、肺が炎症を起こして肺組織の構造が破壊されて空洞をつくり、そこに膿（うみ）が溜まった状態です。アルコール依存症などで誤嚥を繰り返す人に起こることが多く、肺化膿症（はいかのうしょう）と呼ばれることもあります。

この病気は、口の中のを誤って肺に吸い込んだりした場合に起こります。原因菌は、口腔内の嫌気性菌（けんきせいきん）です。特に口腔内衛生が不良な人では、口腔内の嫌気性菌数が増え、これを肺へ吸い込むことによって発症します。また、病原菌が肺以外に発生した感染巣から血流に乗って肺に到達（血行性感染）し、肺膿瘍を発症することもあります。

肺膿瘍になると、発熱、倦怠感、寝汗、せき、膿性たんがみられます。典型的には、数週間かけてゆっくりと症状が進みます。病変が胸膜（きょうまく）に波及することによって、胸の痛みが生じます。顕著な体重減少に気付くこともあります。

たんはしばしば腐敗臭を発し、血が混じることもあります。

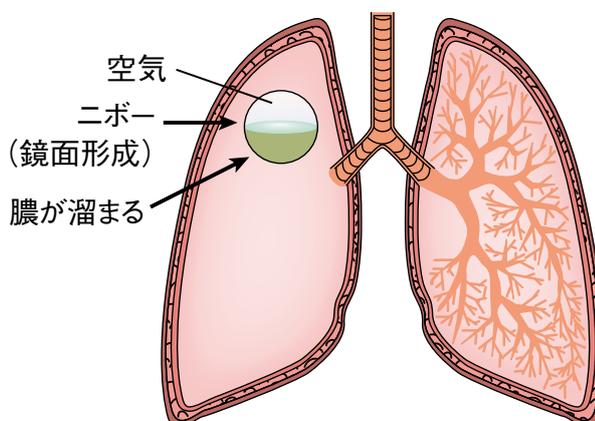
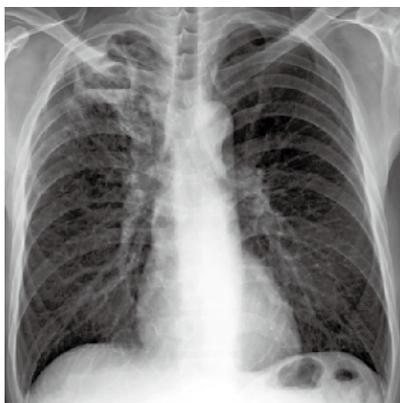
検査では、血液中の白血球の増加や炎症反応の増加を認めます。胸部エックス線画像や胸部CT検査では、肺の中に空洞病変と、空洞の中にニボーと呼ばれる水平（鏡面）形成像がみられます。

肺膿瘍の治療は、口腔内の嫌気性菌に有効な抗菌薬を用いて行います。通常の肺炎と比較して長期（1ヶ月から2ヶ月程度）の治療が必要となります。なかなか治らない場合や、膿が大量にたまっている場合、膿胸にまで進んだ場合は、胸から管を入れて膿を体外に出したり、外科で手術が必要となることもあります。

肺膿瘍の予防法としては、口腔ケアや虫歯の治療が重要です。また、長引くせきや発熱、胸の痛みが出てきた場合、呼吸器専門医のいる病院を受診し、相談する必要があります。

（2016年12月）

肺膿瘍



MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください！



呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

呼吸器

Q&A



『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事もありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会
ホームページ

www.jrs.or.jp/